

同窓会の皆様へ

この度、スタディグループ「Recの会」主催で、下記のとおり、公開のセミナーを開催する事になりました。

「Recの会」は2年程前から新潟市内、数名の歯科医のスタッフを含めた勉強会としてスタート。現在年数回のミーティングを行って歯周治療の研鑽等を行っています。

今回の本セミナーは幅広い層に向けたテーマでもあり、新潟大学の先生方にも是非お聞きいただきたい有意義なご講演です。

多数の参加をお待ちしております。

文責 4期生 根津雄一

『歯みがきの常識・非常識』

～行動科学に基づいたブラッシング 用具の選択と使い方～

’歯ぶらしソムリエ’高柳篤史先生（歯学博士）の特別講演です！

日 時 平成24年11月25日（日） 午後1時より講演

会 場 新潟県歯科医師会館 3階 大会議室

新潟市中央区堀之内南 3-8-13

参加費 1,000円(資格は問いません)、高校生・大学生は無料

主な内容：

日常のブラッシング行動は歯科疾患の予防や治療経過にも大きく影響します。しかしながら、日常臨床において「ブラッシング指導を繰り返しても十分なブラッシングが定着しない」「定期健診に応じてくれない」などといったことが原因で、十分な治療効果が得られないことを経験した方も多いのではないでしょうか。その原因の一つに臨床現場では、小さく、シンプルな歯ブラシを使用し、小刻みに動かし、時間をかけて歯みがきをすることが画一的に推奨されている傾向があることが考えられます。

医療現場の事情から、1種類の歯ブラシをもちいて、同様の指導を画一的に行うことは、とても行いやすいものですが、個々の患者さんの口腔内状況や保健指導の受容性に合った道具の選択や個の多様性に配慮した指導が大切です。

そこで、これまでの行動科学的知見を活用するとともに、市販されている多種多様な口腔ケア用品の機能と特徴を十分に理解することによって、個々の患者さんに適した歯ブラシや歯磨剤を選択するだけでなく、口腔ケア用品を患者さんとのコミュニケーションツ-

ルとして活用することによって、患者支援のための保健指導の幅を広げてみてはいかがでしょうか。

また、近年、科学的根拠に基づく医療が重要視され、口腔保健の分野においても、各国で、口腔保健に関するガイドラインがまとめられています。それらの中で、フッ化物による齲蝕予防効果は科学的根拠が明確になっており、特に、WHO（世界保健機構）は先進諸国の齲蝕の減少には、フッ素入り歯みがき剤の普及が大きく寄与しているという見解を述べています。そこで、今回、フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用方法についても、述べる予定です。

ご略歴

平成元年 3月 東京歯科大学卒業
平成元年 5月 川崎市作間歯科医院勤務（平成4年3月まで）
平成8年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
平成8年 4月 東京歯科大学衛生学講座研究助手
平成10年 4月 埼玉県幸手市・高柳歯科医院（現在に至る）

「オーラルケアで歯のくすみを改善！」

<http://health.goo.ne.jp/column/healthy/h002/0089.html>

「歯磨きにまつわる“真”事実 ～虫歯を予防して健康に～」

http://www.kao.co.jp/rd/healthcare/activity/healthcare32_04.html

「一生涯、食生活を楽しむために」

http://www.onsenkyo.com/kenko-u/atsugi/20071124a_sp.html

「はみがきの常識・非常識」科学的視点で考える、歯みがき成功へのアプローチ」

http://ir.tdc.ac.jp/irucaa/bitstream/10130/119/1/107_665.pdf

主な著書、論文

モチベーションを上げる15のアドバイス（編著）/クインテッセンス出版 2009
ヘルスケアの処方箋（共編著）/医歯薬出版 2009
口腔保健推進ハンドブック（共著）/医歯薬出版 2009
困った患者さんにどう活かす 診療室の行動科学（共著）/クインテッセンス出版 2008
歯肉縁上のプラークコントロール（共著）/医歯薬出版 2004
唾液の科学（共訳）/一世出版 1998
歯みがき・歯ブラシ大図鑑（共著）/医学情報社 1999
歯磨きのソムリエになる デンタルハイジーン Vol.28(No1～6)/医歯薬出版 2008
生涯にわたって歯を保つために /歯科衛生士 2008. 4月